

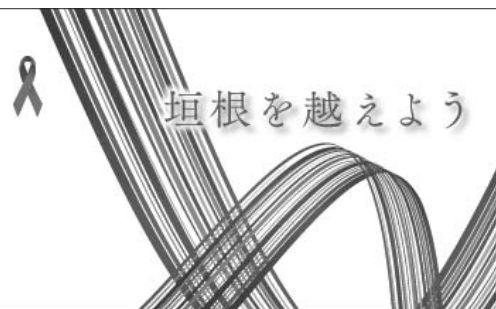
# 垣根を越えよう

第24回 日本エイズ学会学術集会・総会ニューズレター

第5号

発行：2010年11月25日(木曜)

編集：第24回日本エイズ学会学術集会・総会ニューズレター編集班



## プレナリーセッション第1日 治療の現状など報告

エイズ学会開幕

分野を越えてHIV/エイズの情報を共有する目的で、日本エイズ学会では初めて設けられたプレナリーセッションが24日午後、第1会場のプリンスルームで開かれ、国際エイズ学会(IAS)のエリ・カタビラ理事長(ウガンダ)とカナダ・トロント大学病院のシャロン・ウォルムズリー博士が途上国と先進国の治療の現状を報告した。午前のセッションでは、アジア太平洋エイズ学会(ASAP)のザヒド・フセイン理事長と来年7月の第10回アジア太平洋地域エイズ国際会議(ICAAP)組織委員会のミュンハン・チョウ副会長が講演を行っており、グローバルおよびリージョナル(地域)のエイズ研究のキーパーソンが集結するかたちになった。

カタビラ博士は世界のHIV/エイズの流行を概括したあと、1996年の第11回国際エイズ会議(カナダ・バンクーバー)で多剤併用療法の高い延命効果が報告されて以来の抗レトロウイルス治療の普及の流れを報告した。この中で博士は2000年に南アフリカのダーバンで開かれた第13回国際エイズ会議で、白人ゲイ男性である南アのエドウィン・キャメロン判事が「自分がいまここで演説しているのは治療代を払えるからであり、いわばお金で生命を買っているようなものだ」と演説したことを紹介、この演説が途上国の貧しい人々への治療の提供に大きく道を開いたことを紹介した。

また、世界保健機関(WHO)と国連合同エイズ計画(UNAIDS)による3 by 5計画(2005年までに途上国の300万人に治療を提供できるようにする計画)など2000年以降の治療普及の動きを取り上げ、「3 by 5は失敗だったと考えられているかもしれないが、この計画があるからこそ先に進めた」と評価した。途上国でHIV治療を受ける人の数は2002年時点で30万人だったのが、2009年には520万人に増えているという。

ただし、この間に治療を必要とするHIV陽性者も増え、治療のカバー率は2009年末でも37%にとどまっている。カタビラ博士はケニアで検査を受けるために診療所の前に長い列を作る人たちの写真を示し、「多くの人が検査を受け、治療を受けたいと望んでいるのに、それに対応できていない。あらゆる人に治療を提供するユニバーサルアクセスの実現にまだ道は遠い」と語った。

カタビラ博士は現状の問題点として、(1)途上国ではWHOガイドラインの治療開始の目安であるCD4値350を大きく下回り、かなり重症化してから治療を開始するケースが



途上国の治療普及について語るエリ・カタビラ博士

多い、(2)あまりにも多くの人に対応しなければならず医療従事者は疲弊している、(3)対策の資金は急速に枯渇しようとしている、と指摘した。また、抗レトロウイルス治療の簡素化などで、治療のユニバーサルアクセス実現を目指すUNAIDSのTREATMENT2.0については、「IASもサポートしている。治療を受ける人が増えればコミュニティ全体の治療の機会も減る。予防のための治療という考え方には課題もあるが、問題点ばかり考えるのではなく解決策を示していかなければならない」と述べ、途上国における治療普及実現に強い意欲を示した。

ウォルムズリー博士は先進国の治療の普及がもたらした大きな成果について報告するとともに、いままでにない複雑な合併症を経験したり、治療を継続する中で多くの人がつつ状態になることへの対応、潜伏感染したウイルスを根絶できないことなど、HIV陽性者の長生きが可能になったことに伴う課題を指摘した。

国立感染症研究所エイズ研究センターの武部豊博士は、「世界から見た日本のHIV感染症の分子疫学：我が国のHIV流行はいかにして始まり、どこに向かおうとしているのか」をテーマに講演した。わが国の流行の中心を占めるMSM(男性とセックスをする男性)の間でのHIV感染は大多数が欧米型のサブタイプBである一方、長野県や茨城県では異性間性感染が主要リスクファクターであり、ウイルスのサブタイプはCRF01\_AEが中心になっているという。地域的な感染の実情に応じたHIV/エイズ対策の必要性を感じさせる報告だ。

# 韓国ICAAPへの 参加を招待



ICAAPへの参加を呼びかけるミュンハン・チョウ副会長。手前は岩本愛吉会長

第1会場のプリンスルームでは24日午前9時半からの開会あいさつに続き、最初のセッション「ICAAPへの招待」が行なわれた。第10回アジア太平洋地域エイズ国際会議（ICAAP）のミュンハン・チョウ副会長はの中で、HIV陽性者に対する韓国の入国規制は政府が撤廃を決定したことを強調し、来年8月に釜山で開かれる第10回ICAAPの日本からの積極的な参加を呼びかけた。

チョウ副会長は、HIV/エイズの流行について、「保健医療だけでなく、社会、経済的課題でもある。知識を共有し、経験を交換することによって、この流行と闘うことができる」と述べた。釜山ICAAPの会期は来年8月26日から30日までだが、2日前の24日からコミュニティフォーラムなどHIV/エイズの流行と取り組むコミュニティのさまざまなイベントが開催される。

また、国連合同エイズ計画（UNAIDS）や国際エイズ学会（IAS）は韓国をHIV陽性者に対する入国規制が残っている国

と位置付けている。この点については「短期間の訪問に関しては、制約はまったくないが、韓国に90日以上、滞在して仕事をしたいという人には、HIVに感染していないことを証明しなければならなかった。しかし、韓国政府は今年に入って規制を外した。これは劇的な変化だ」と述べた。

チョウ副会長によると、韓国で働く外国人はこれまで、HIV陽性とわかると国外に出なければならなかった。韓国は国連の潘基文事務総長の出身国であり、規制撤廃の背景には「HIV/エイズ政策でアジアを主導する国として、規制を撤廃すべきだ」との潘氏からの強い働きかけもあったという。関連法規の撤廃や改正は、国会での審議を経なければならぬが、チョウ副会長はすでに政府が撤廃を政策として決定しており、滞在の規制は実質的に行なわれていないとしている。

## 開幕セッション

プレナリーセッションの社会分野報告では、日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラスの国際担当、羽鳥潤さんが自身のHIV陽性を公表して、「東アジアにおけるHIV陽性者の治療アクセス」をテーマに発表を行なった。

羽鳥さんは海外の陽性者との交流のなかから、陽性者が直面するスティグマの問題はどこ国でもおなじである一方、各国での薬剤や治療へのアクセスの違いに衝撃を受けた経験を語った。

また、アジアの場合、注射薬物使用者、セックスワーカー、MSMとトランスジェンダー、移動労働者間での感染など、MARPS（Most at risk population）の多様性があり、さらにそのパートナーである女性への感染の急拡大が懸念されている。

2009年8月のUNAIDSの報告書は、MARPSの女性のパートナー5千万人も高いリスクを抱えていることを指摘してい

る。

こうした「リスクにさらされている人」の多様性ととともに、国により治療アクセスにはばらつきがあり、シンガポールと韓国の状況を紹介した。

ひるがえってわが国は、一応の治療体制は整備されてい

るが、都市と地方の治療格差、国籍（在日外国人）による格差、さらに「不法滞在」外国人への救済がないことなど、けっしてユニバーサルアクセスではないことを指摘した。

来年8月の釜山ICAAPについて「新しい時代の東アジ

アのネットワークを構築できればいい」と述べ、韓国のHIV陽性者グループとのさまざまな交流が生まれることに期待感を表明した。

## 東アジアの現状 羽鳥潤さんが プレナリー報告



【記者リポート番外編】注目のシンポジウムから

# フィナーレ

## ゲイコミュニティ文化への招待としても必見！

■日時 11月26日（金） 18：00～20：00  
■会場 第1会場（B1F プリンスルーム）



ゲイ向け啓発  
パンフでも  
大人気！

注目シンポジウムというには場違いかもしれないが、やはり「注目」に値するだろう。今回、3日間にわたる公式プログラムの幕を閉じた直後の26日午後6時から、第1会場のプリンスルームで「フィナーレ」が、一般公開イベントとして開催される。

学会の最終日といえこれまでは講演会やシンポジウムを開催して公式プログラムを締めくくることが多かった。今年はそうした思い込みをいったん取り払い、パーティ形式のフィナーレが企画された。軽食とビールが提供され、ドラッグクイーンによるショータイムなど、エンタテインメント色の強い空間の中で、HIV/エイズとの闘いを通し、日本の社会に存在するさまざまな垣根を越えていくためのメッセージが発信されることになる。

ドラッグクイーンには、ゲイコミュニティが誇るCampy!ガールズから、ブルボンヌとサセコが登場。

Campy!に名をとどめるこの「キャンプ」とは、「ゲイコミュニティに特有のある種のてらいとユーモアの表現」であり、「他のゲイのオネエな部分をあげつらい、そこをところをたっぷり尾ひれをつけて批評してみせること」「真面目さとはほど遠く、悲劇とは対局にある、何事も中身よりスタイルが大事という美意識」(『ザ・ニュー・ジョイ・オブ・ゲイ・セックス』伏見憲明監修、白夜書房1993)。90年代にこの言葉が紹介されたとき、日本のオネエさんたちは、「なんだ、向こうのオカマも同じだったのね」と思ったものだ。

キャンプな意識はゲイ同士のおしゃべりなど日常づきあいに愛用されるのはもちろんだが、それがもっともよく発揮されるのは、「ドラッグクイーン」によるパフォーマンスだろう。クラブでのダンスの合間のショータイムとして大きな人気を集め、ゲイカルチャーを代表するものとなっている。ドラッグは、引きずる(パソコン用語の「ドラッグする」と同じ)で、引きずるほどのドレスを着て女装することに由来するという。

「真の女性」以上に女性性を身にまとうことは、ストレート社会が「<sup>さげす</sup>ゲイなんて女と同じ」と蔑んできたことを逆手にとり、社会をけむにまき、その偽善や偏見へ嘲笑を投げ返す手段でもあった。

ストレート社会のゲイへの敵視が激しかった時代だからこそ、したたかな抵抗としての魅力をたたえてきたキャンプは、あるいはゲイの社会受容が進むなかで激しい風刺性を失い、現在、女装とお笑いの「外形」のみを残して定格化し、一種の「古典芸能」「伝統芸能」となっているきらいもないではない。が、今回登場の演者は90年代以来、活躍して来た大御所格のメンメンであり、ゲイコミュニテ



左から、ブルボンヌ、サセコ、ジャンジMadame Bonjour JohnJのメンメン

ィへの理解の一助としても、ショーをお楽しみいただければと思う。そして、爆笑のうちにも、彼らがここまでシャレのめそうとしているものはなにかを、そしてそれはなぜなのかを、味わっていただければと思う。

ちなみにドラッグクイーンは女装ゲイにかぎらず、女装する女性、男装する女性などにも冠されることがある。さよう、一種の「<sup>かぶ</sup>傾き者(歌舞伎もの)」であろうか。もう一つのショーのパフォーマー、ジャンジMadame Bonjour JohnJもそうした一人だ。

当日は、ほかに「まぼろしママ」などで知られる、漫画家の小島功さん(日本漫画家協会会長)を迎えてのトークもあり、セクシュアリティや世代の「垣根を越えて」話題が繰り広げられる予定。

生真面目なほど参加してほしいー医療や看護や福祉など、人間相手の商売ならばいっそうーフィナーレである。

### ブルボンヌ

<http://www.campy.jp>

女装パフォーマー/ライター。『知りたがり!』(フジテレビ系)『タやけ寺ちゃん活動中』(文化放送)コメンテーター出演、『この映画がすごい!』(宝島社)『週刊女性』(主婦と生活社)『サイゾーウーマン』、『レコチョク』等に連載寄稿しつつ、新宿2丁目ゲイミックスパーのママ業もこなす。オネエなブログ『Campy!』もプロデュース中。そこから生まれた熟女装ユニットCampy!ガールズは、一番人気のサセコさんをはじめ、全国イベントで活躍中!

### ジャンジ Madame Bonjour JohnJ

<http://instant.typepad.com/johnj/>

1990年より舞台に立つ。日常も晴れ着でうたいつづける未来性器ダンサー/Female Drag Queen。あらゆる境界線を超えたキラキラした世界を願う活動家。1997年より交歓のゲイミックスParty「ジューシー!」をオーガナイズ。新宿2丁目の公民館でHIVエイズの情報センター「コミュニティセンターakta」をコーディネートし、「Living Togetherのど自慢」を企画協同開催。東京都写真美術館ホール(11/23)にて公演。

(担当: 永易至文)

# シリーズ GrassRoots東西南北！～NGOブースからの紹介2



ブース前で、Love Act Fukuoka (LAF) の牧園さん(左)とハイレイトさん

## 【Love Act Fukuoka (LAF)】

福岡にあるコミュニティセンターhacoを活動拠点にして、2002年に発足。福岡市内や北九州市内でMSM(男性とセックスをする男性)に向けたHIV予防啓発活動を行なっている。代表の牧園祐也さんによると、福岡は東京、大阪、名古屋などの大都市に次いで、HIV感染の報告が多い都市で、「今年はとくにエイズを発症してからHIVの感染が判明するケースが多い」という。

展示ブースではバーへ配布する季刊のコミュニティペーパー「SEASON」やオリジナルデザインのパッケージのコンドーム、パンフレット、2008年に実施したバー・アンケート調査の報告書などが置かれている。



とくにコンドームを入れるポケットがついた男性用下着(ジョグストラップ、ゲイコミュニティでの通称=ケ

れた。「最後の最後、ぎりぎりの瞬間まで、コンドームを持っているようにするにはどうしたらいいか。上着は脱いでしまえば、終わり。パンツなら最後まで身に着けていますから」とハイレイトさんはいう。

## 【wAds 2010】

HIV/エイズ予防啓発活動を行なっている学生のキャンペーングループ。東京の池袋や渋谷で街頭キャンペーンを行なうのをはじめ、毎年、世界エイズデー(12月1日)の前後にさまざまなイベントを実施する。今年は東京、愛知、広島3か所に啓発キャンペーンの実行員会が作られた。ブースには活動報告書や啓発資料、wAdsオリジナルコンドーム、カラフルなコンドームケースなどが置かれている。

代表の根岸清香さん(早稲田大学大学院公共経営研究科)によると、「全国HIV/エイズ予防啓発活動に取り組む学生のグループを集め、勉強会なども行なっています。キャンペーンの期間は世界エイズデー前後の2か月間ですが、そのための準備は年間を通して行なっています」という。

がっています。(編集長・宮田一雄)

●メイン会場とサブ会場のあいだには、日本庭園が広がっています。泊まり込みのホテルの9階の部屋から見下ろすと、木々が赤や黄色に見事に色づき、日本の錦秋を堪能させてくれます。セッションの取材や執筆、パソコンでの組み上げ作業に疲れたとき、広いホテルやお庭をそぞろ歩いて身体をほぐします。エイズ学会1日目が、ようやく終わりました。

(永易至文)

## 【NPO法人ピアフレンズ】

10代、20代のゲイの若者向けに友だち作りのための会合を開いている。孤立している当事者のためのイベントで、参加者のうち30%ぐらいは、その会合が「初めて自分以外のゲイに会う機会」になる。2002年10月にスタートし、昨年7月、NPO法人の認可を受けた。ブースでは「ボクラライフ」という啓発の冊子も配布されている。

イベントは東京の池袋、下北沢、横浜など首都圏で月1回開催。大阪や札幌、高松などで出張開催することもある。理事の高橋章太さんによると「お酒が入らない、昼間、公共の場所で開く」というのがイベントの特徴だ。

## 参加NGO一覧

(特活) レッドリボンさっぽろ  
社会福祉法人はばたき福祉事業団 北海道支部  
検査施設『サークルさっぽろ』  
(特活) HIVと人権・情報センター  
wAds2010 (World AIDS Day Series)  
HaaTえひめ  
Love Act Fukuoka (LAF)  
MASH大阪  
(特活) ピアフレンズ  
横浜Cruiseネットワーク  
(特活) ぶれいす東京  
Rainbow Ring  
エイズ予防のための戦略研究 首都圏グループ  
ACC/ブロック拠点病院  
ライフ・エイズ・プロジェクト(LAP)  
HIV陽性者参加支援スカラシップ委員会  
(特活) 日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス  
(特活) CHARM  
Follow  
陽性者サポートプロジェクト関西  
HIV感染症に関するカウンセリング研究グループ

## 編集を終えて

●学会の開幕前日、国連合同エイズ計画(UNAIDS)が世界のHIV/エイズの流行に関する最新推計が発表しました。韓国では国境を越えて北朝鮮の砲撃。第24回日本エイズ学会初日、幕開けのセッションは、その韓国の釜山で来年8月に開かれる「ICAAPへの招待」でした。午後にはUNAIDSの報告書について、NGOが記者会見。世界は思わぬところをつな

## 第24回日本エイズ学会学術総会・総会 ニューズレター 第5号

編集長: 宮田一雄

スタッフ: 永易至文、吉田智子

写真: 菊池修

24日の登録参加者総数: 880名(18時)